

えり

巢に返る待つは燕の口の数
卵産む燕の尾っぽリズムかな
亀なけどうそ泣き出来ず媚売れず

タ子

○頑として守りし田畑つばめ来る
○子燕の巢立ちし軒端去りがたく
新聞紙敷いて見守るつばめの巢

万貴

○極め付けは控えよと父虹渡る
○りようかい😊の返信は疾し朝つばめ
志士像の享年を読む五月光

さえ

四十雀郵便受けに巢を作る
ふり仰ぐ空に架かりて虹に立つ
何時やらも行くとも知らぬ燕かな

志津子

○夕虹やきみの背中が遠くなる
○穏やかに暮れて一人の豆御飯
落ちて尚物言いたげに夏椿

富子

○親燕私にだって過去がある
虹かかる七歳前ななとせまえの密か事みそ
様々な緑魅せつつ土讃線



千代

○雲の間と雨の間はぐみをつばくらめ
○虹の橋紙飛行機は宙返り
抱き合へる親子狛犬薄暑光

文子

雨あがり東の空に二重虹
きび畑雨足過ぎて虹くつきり
燕の子飛び返るさま巢立ちかな

あさこ

万緑を落ち来る影や川面濃く
激つ瀬の水の香をのせ風薫る
万緑をぬけし光の滴したたれる

文子

○虹立ちて見知らぬ人と声交わす
「頭上注意」サービス・エリアの
つばめの子

農子

橋潜る燕素早しユーターン
右折した真正面や二重虹
遠雷や民の頭上は爆の音

初江

○文化祭化学部虹を作りおり
白内障手術した日の窓に虹
農道に二羽の子燕立ちつくす

富江

○絵筆買う楽しみひとつ朝の虹
デイサービスへ見送るつばめ巢立ちかも
ワクチンの予約無茶振り梅雨に入る

美貴

○吾が為に灯せば火蛾の舞ふ灯
名刀の反り美しやつばくらめ
止むかしらもう止むかしら著莪の雨

弘

○斎場を出れば燕の低くとぶ
○虹消えてクレパス匂う小学校
○春の夢その結末が腑に落ちぬ

丞子

犬洗うブルンブルンまとう虹
ふるさとの子燕減りぬ誰れも彼も
水盤に孵化した目だま白目高

郁子

○つばくらめ後あとから風の追いかけて
○渡りきる寸前目覚む虹の橋
虹出てる早く早くと来たライン

味元 昭次 作品

訪問看護師燕の子にも声かけて
修羅ありし家の軒にも燕の子
虹は虫偏蝸も虫偏梅雨深し

★次回市民句会

【開催日時】

令和三年六月二十三日(水)

午後一時一五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます